

国 港 総 第 4 8 2 号
令 和 4 年 1 2 月 5 日

各地方整備局特定部局長 殿

港 湾 局 長
(公印省略)

「工事請負標準契約書の制定について」の一部改正について

今般、公共工事標準請負契約約款（昭和 25 年 2 月 21 日中央建設業審議会決定）について、近年の災害の激甚化・頻発化や、不適切な盛土等による土砂災害リスクの増加を背景に、危険な盛土等の発生を防止するため建設発生土の搬出先の明確化が求められていること等を踏まえ、令和 4 年 5 月 18 日及び 9 月 2 日に所要の改正が決定され、その実施について、それぞれ国土交通省中建審第 4 号、国土交通省中建審第 15 号により国土交通大臣あて勧告されたところである。

これを踏まえ、災害応急対策又は災害復旧に関する直轄工事において工事目的物の引渡し前に、不可抗力により工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料若しくは建設機械器具に損害が生じたときは、発注者が損害合計額を負担すること、また、再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならないこと、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならないことを明記するよう「工事請負標準契約書の制定について」（平成 8 年 1 月 24 日付け港管第 111 号）の一部を改正することとしたので通知する。

記

（工事請負標準契約書の制定についての一部改正）

「工事請負標準契約書の制定について」（平成 8 年 1 月 24 日付け港管第 111 号）の一部を次のように改正する。

別冊工事請負契約書中次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

| 改正後 | 改正前 |
|--|---|
| <p data-bbox="263 293 470 324">工事請負契約書</p> <p data-bbox="180 387 363 418">1～7 (略)</p> <p data-bbox="180 432 528 463">8 建設発生土の搬出先等</p> <p data-bbox="217 477 783 649">[注] この工事に伴い工事現場から建設発生土を搬出する予定である場合は、仕様書又は現場説明書に建設発生土の搬出先の名称及び所在地を定める。</p> <p data-bbox="269 663 783 1350">仕様書に定めた場合には「建設発生土の搬出先については仕様書に定めるとおり」と記入し、現場説明書に定めた場合には「建設発生土の搬出先については現場説明書に定めるとおり」と記入する。<u>なお、この工事が資源の有効な利用の促進に関する法律（平成三年法律第四十八号）の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。</u></p> <p data-bbox="180 1364 363 1395">9～10 (略)</p> <p data-bbox="451 1408 504 1440">(略)</p> <p data-bbox="189 1453 480 1485">(不可抗力による損害)</p> <p data-bbox="173 1498 783 1982">第30条 工事目的物の引渡し前に、天災等（設計図書で基準を定めたものにあつては、当該基準を超えるものに限る。）で発注者と受注者のいずれの責めにも帰すことができないもの（以下この条において「不可抗力」という。）により、工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料若しくは<u>建設機械器具（以下この条において「工事目的物等」という。）</u>に損害が生じたときは、受注者は、その事実の発生後直ちにその状況を発注者に通知しなければならない。</p> | <p data-bbox="901 293 1109 324">工事請負契約書</p> <p data-bbox="817 387 1000 418">1～7 (略)</p> <p data-bbox="817 432 1165 463">8 建設発生土の搬出先等</p> <p data-bbox="853 477 1420 649">[注] この工事に伴い工事現場から建設発生土を搬出する予定である場合は、仕様書又は現場説明書に建設発生土の搬出先の名称及び所在地を定める。</p> <p data-bbox="906 663 1420 925">仕様書に定めた場合には「建設発生土の搬出先については仕様書に定めるとおり」と記入し、現場説明書に定めた場合には「建設発生土の搬出先については現場説明書に定めるとおり」と記入する。</p> <p data-bbox="817 1364 1000 1395">9～10 (略)</p> <p data-bbox="1090 1408 1142 1440">(略)</p> <p data-bbox="826 1453 1117 1485">(不可抗力による損害)</p> <p data-bbox="810 1498 1420 1946">第30条 工事目的物の引渡し前に、天災等（設計図書で基準を定めたものにあつては、当該基準を超えるものに限る。）で発注者と受注者のいずれの責めにも帰すことができないもの（以下この条において「不可抗力」という。）により、工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料若しくは<u>建設機械器具</u>に損害が生じたときは、受注者は、その事実の発生後直ちにその状況を発注者に通知しなければならない。</p> |

2・3 (略)

4 発注者は、前項の規定により受注者から損害による費用の負担の請求があったときは、当該損害の額（工事目的物等であって第13条第2項、第14条第1項若しくは第2項又は第38条第3項の規定による検査、立会いその他受注者の工事に関する記録等により確認することができるものに係る損害の額に限る。）及び当該損害の取片付けに要する費用の額の合計額（以下この条において「損害合計額」という。）のうち請負代金額の100分の1を超える額を負担しなければならない。ただし、災害応急対策又は災害復旧に関する工事における損害については、発注者が損害合計額を負担するものとする。

5 (略)

6 数次にわたる不可抗力により損害合計額が累積した場合における第2次以降の不可抗力による損害合計額の負担については、第4項中「当該損害の額」とあるのは「損害の額の累計」と、「当該損害の取片付けに要する費用の額」とあるのは「損害の取片付けに要する費用の額の累計」と、「請負代金額の100分の1を超える額」とあるのは「請負代金額の100分の1を超える額から既に負担した額を差し引いた額」と、「損害合計額を」とあるのは「損害合計額から既に負担した額を差し引いた額を」として同項を適用する。

2・3 (略)

4 発注者は、前項の規定により受注者から損害による費用の負担の請求があったときは、当該損害の額（工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料若しくは建設機械器具であって第13条第2項、第14条第1項若しくは第2項又は第38条第3項の規定による検査、立会いその他受注者の工事に関する記録等により確認することができるものに係る額に限る。）及び当該損害の取片付けに要する費用の額の合計額（第6項において「損害合計額」という。）のうち請負代金額の100分の1を超える額を負担しなければならない。

5 (略)

6 数次にわたる不可抗力により損害合計額が累積した場合における第2次以降の不可抗力による損害合計額の負担については、第4項中「当該損害の額」とあるのは「損害の額の累計」と、「当該損害の取片付けに要する費用の額」とあるのは「損害の取片付けに要する費用の額の累計」と、「請負代金額の100分の1を超える額」とあるのは「請負代金額の100分の1を超える額から既に負担した額を差し引いた額」として同項を適用する。

附 則

1. この通知は、令和5年1月1日から施行し、同日以降に契約を締結する工事から適用する。それ以前のものについては、従前の例による。ただし、第30条の改正規定は、令和5年4月1日から施行し、同日以降に契約を締結する工事から適用する。
2. 前項の規定にかかわらず、令和5年3月31日までに請負契約を締結している工事のうち、令和5年4月1日以降に工期の終期が到来するものであって、災害応急対策又は災害復旧に関する工事については、令和5年4月1日以降、第30条の改正規定を適用し、同日までに契約変更を行うものとする。